

令和8年度 第 1 回高岡市認知症施策推進会議(報告)

1 開催

日 時 : 令和8年5月 26 日(火) 13 時～14 時 45 分

場 所 : 高岡市役所 802 会議室

出席者 : 認知症の人及びご家族、保健医療・福祉または日常生活全般に関わる関係分野の関係者 17 名

2 会議内容について(概要)

(1) 会議の設置目的・計画策定について

(2) 第 1 期高岡市認知症施策推進計画の策定に向けた現状・方向性について

【基本的な考え方】

認知症の人やその家族等とともに認知症施策を推進し、誰もが認知症になり得ることを前提に、市民一人ひとりが、認知症への正しい知識を持ち、“認知症の人が基本的人権を有する個人として認知症とともに希望をもって自分らしく暮らす”という考え方(新しい認知症観)を自分ごととして理解することで、誰もが認知症になっても安心して日常生活を営むことができるまちづくりを推進する。

【計画の基本方針】

国の認知症基本法に規定する8つの基本的施策を中心に、認知症の人の声を起点とし認知症の人の視点に立って、認知症の人と家族等とともに認知症施策を推進する。

国の基本的施策

- ① 認知症の人に関する国民の理解の増進等
- ② 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進
- ③ 認知症の人の社会参加の機会の確保等
- ④ 認知症の人の意思決定の支援及び権利利益の保護
- ⑤ 保健医療サービスおよび福祉サービスの提供体制の整備等
- ⑥ 相談体制の整備等
- ⑦ 研究等の推進等
- ⑧ 認知症の予防等

(3) 意見交換(抜粋)

	委員等からの意見等
1	・認知症者本人・介護者家族が集う場(みんなの会 つなが～る)に毎回楽しく参加しているが、参加される方が少ないように感じる。参加することで「みんなもそうなんだ。」「介護者の思いはみんな一緒。」と納得した形で生活できる。
2	・認知症という診断を受け、ショックではあった。しかし隠しておくことではないと思い、近所の方や友人に会う度に伝えた。周囲の方は差別することなく、優しく見守ってもらえている。
3	・相談のタイミングは、本人の今後の生活に関わってくるので、家族が変化を感じた時、本人が物忘れを自覚したときなど、早期に相談ができる身近な窓口がもっとあればいいと思う。
4	・家族が「ちょっとおかしいな。」と思っけていても、そのタイミングでは包括には相談に来ず、症状が進行した段階で相談に来られる。認知症初期集中支援チームに相談し、助言をいただきながら、連携し、対応しているが介入が難しいケースが増えている。受診や相談につながるまでは、ご家族の負担が大きい。
5	・もう少し早く認定を受け、介護サービスを利用できれば、MCI の段階で介入できるのではと思う。
6	・認知症状が軽度な方に対して、家庭やグループホームではない“第三の居場所”づくりが重要ではないか。
7	・認知症サポーター養成講座をどのように周知していくかも大切である。
8	・移動販売では、ドライバーは大体誰が来るか把握しているため、「最近来られていないが大丈夫か。」と包括に伝える等、高齢者の見守り活動も行っている。事例だが、移動訪問場所に来られないため自宅に行くと、玄関先で倒れられていたことがあった。認知症の有無に関わらず、高齢者の見守り活動という形で移動販売を行っている。
9	・認知症の方も認知症を隠したがるという話であったが、認知症への偏見がなくなればもっと住みやすい地域になると思う。ケアネット活動についても個人の了解を得て支援している。
10	・住み慣れた地域で長く安心して暮らしていくためにも、認知症の方やご家族の方の声を直接聞く機会を設けることの大切さを感じた。